3・4年次

Seminar Themes and Research Activities

ゼミ・研究

国際文化学部では、3・4年生を対象に、30を超える演習が開講されています。学生は各演習に参加して、興味のあるテーマについて研究を進めます。それぞれの研究成果は論文や作品を通じてまとめられます。

情報文化コース 森村修ゼミ

森村ゼミでは、自己や他者を理解するために、フロイトやユング、ラカンなどの精神分析学的アプローチを用いて、人間の深層心理を解明する研究を行っています。様々な文化の中で生きる人間を理解するためには、人間の〈こころ〉が、その人も知らないうちに文化の中で、どのように作られてきたかを明らかにする必要があります。そこで森村ゼミでは、私たちの〈こころ〉の動きが無意識的に表現されたアート作品や、欲望が引き起こす犯罪などをヒントにして、無意識のメカニズムを解明し、異文化理解を深めることを目指しています。

上田 瑞季さん
出身高校：山梨県立都留高等学校
SA先：アメリカ　ミシガン州立大学

研究テーマ

「セルフ・エスティームの構造変容 ー〈他者〉を契機にしてー」

受験生の皆さんは、日本の若者や子どもは、他国に比べて「自分を大切に思う感情」を持てない、という国際比較調査の報告をご存じですか？こうした感情は、英語では“self-esteem”（セルフ・エスティーム）と呼ばれ、日本語では「自尊感情」や「自己肯定感」と訳されています。従来の研究では「自分が自分のことを一番よくわかっている」という考え方が主流でした。しかし近年、自分のことを理解するために、他者との相互作用が極めて大きな役割を果たすことが明らかになってきました。そこで私は、他者との社会的関わりの中で、セルフ・エスティーム概念の構造がどのように変容するかを捉え直そうと試みています。

研究の動機

セルフ・エスティーム研究をテーマにしたのは、端的に、自分のセルフ・エスティームが低いと思っていたからです。なぜ低くなってしまったのか、その原因を純粋に突き止めたかったのが研究の本来の動機でした。そして、原因を突き止め、適切に対処できれば、これ以上セルフ・エスティームが低くならないだけでなく、同じように低くて自尊感情が持てない人にも何か力になれると考えたからです。しかし研究を進めるうちに、そもそも「セルフ・エスティームとは何か」という根本的な疑問が解決されていないことに気づいたのです。そこで私は、セルフ・エスティームが他者と関わることでどのように変化していくかを考察し、新しいセルフ・エスティーム概念を捉えていくことにしました。

表象文化コース 岡村民夫ゼミ

ふつう人は「場所」の作用をほとんど意識しませんが、それはかえって「場所」の重要性を意味するでしょう。「場所」とはすべての文化活動を支える無意識のようなものなのです。洞窟から生まれたアートは、「場所」と積極的な関係を保ってきましたが、現在、その傾向はますます強まっています。私の演習では、芸術（美術、文学、映画、建築など）の鑑賞と、都市や田園のフィールドワークの両サイドから、「場所」に対する思考力や感受性を養います。私たちは一生「場所」と付きあっていくのですから、卒業後も役立つこと請け合いです。

古池 萌さん
出身高校：横須賀市立横須賀総合高等学校
SA先：カナダ　トレント大学

研究テーマ

「ディズニーアニメーションから考える東京ディズニーランド ー東京ディズニーランドとはどのような場所かー」

最近、東京ディズニーランドの接客マナーや経営が注目されていますが、私はアニメーションを中心に研究しています。
ディズニーのアニメーション作品を舞台の場所や作品公開時の時代背景などに注目して考察しています。そして、アニメーション考察でわかった特徴が、東京ディズニーランドにどのように反映されているのかを文献調査やフィールドワークから研究をしています。

研究の動機

ゼミのテーマが「場所論」ということで、自分の好きな場所について研究したいと思い、幼少期から思い入れのあった東京ディズニーランドをテーマに選びました。アプローチの仕方としてアニメーションを選んだのは、春学期に岡村ゼミでスタジオジブリのアニメーションについて学んだことにあります。この時に、ストーリーや作画だけでなく舞台となる場所も重要な要素だと気付きました。そして、私にとってお気に入りの場所であった東京ディズニーランドについて、春学期に学んだアニメーションと場所の関係を生かして研究したいという思いからこのテーマを選びました。

言語文化コース 衣笠正晃ゼミ

われわれをさまざまなかたちで取り囲んでいる「文化」。その成り立ちには「ことば」が大きくかかわっています。われわれが生きる世界をことばが切り取り、われわれにとっての「あたりまえ」を成り立たせているのです。このゼミではポピュラーカルチャーと総称される身近な文化事象や社会問題を取り上げて、その背後にある歴史的・社会的な文脈や意味のあり方を学問的に読み解いてゆきます。日本的な伝統や美意識とされるものが、いつどのように「ことば」を通じて形作られたかを、クリティカルな視点から考察することも、重要な論点です。

山田 愛さん
出身高校：千葉県立安房高等学校
SA先：フランス　西部カトリック大学

研究テーマ

「現代の日本庭園のあり方」

歴史ある著名な庭園だけでなく、近代以降に新しく作られた庭園にも注目しながら研究しています。3年次の論文では、日本庭園が歴史的にどのような変容を遂げて現在の形に至ったのかを明らかにし、海外の庭園と比較しながら、「自然との調和」や「建築との融合」といった日本庭園に特徴的な「空間の美」について考察をおこないました。今後はさらにフィールドワークを増やし、日本各地の庭園を実際に訪れて鑑賞し、訪問者の生の声を聴くことで、卒業論文に向けて研究を深めていきたいと考えています。

研究の動機

国際文化学部のスタディ・アブロードプログラム（SA）でフランスへ行き、現地の様々な文化に触れることができました。毎日の生活のなかで新しい文化を自然に吸収できたSAはとても貴重な経験でしたが、他国の文化を学ぶなかで、日本の文化がもつ価値や意義についても認識を新たにしました。それがきっかけとなり、日本が誇ることのできる文化についてゼミで研究したいと考え始めました。「日本庭園」というテーマに絞ったのは、海外で多くの人々が注目し、鑑賞のために日本を訪れるほど、その文化的な価値を認められていると知ったからです。

国際社会コース 今泉裕美子ゼミ

国際関係学（International Studies）を学ぶゼミです。「国際関係」が、私たちが自覚する／しないに拘わらずとり結んでいる諸関係から成り立っていることに着目します。世界には（その一部である日本にも）、どんな個性をもつ人々がくらし、地域社会や文化を育み、私たちとどう関係しあっているのか、その個性や関係が作られてきた歴史はどのようなものか。これまで無関係だと思っていた人々との見えなかった関係が見えてくると、新たな出会いがあり、きこえなかった情報もどんどん飛び込んできます。自分の認識を阻んでいたものは何か、認識した自分はどう変化し、諸関係＝世界の一員として役割を果たせるのか、に関する課題と方法を学びます。

石渡 けやきさん
出身高校：東京都立小山台高等学校
SA先：オーストラリア　モナシュ大学

研究テーマ

「メディアがつくる日中関係〜反日・反中から相互理解へ〜」

日本と中国で「反中」「反日」の認識が生まれてしまうのはなぜか、どう克服できるのかを研究しました。互いのイメージがつくられる際、新聞やインターネット等のメディアによる影響が強いと考え、日中のメディアに焦点を当て調査しました。反日デモの過激な部分だけを伝える日本の新聞や、政府に不都合な情報はブロックされる中国の環境など、両国のメディア事情が固定観念を作り出していることがわかりました。しかし一方で、互いを理解するための手段としてもメディアは有効であり、先入観に縛られない情報発信をしていくことが大切だと考えています。

研究の動機

オーストラリアに留学中、反日感情をもつ中国人学生に出会ったことがきっかけでした。それは日本人も同様で、お互いに嫌悪感を抱いているのを感じました。なぜ仲良くできないのか。理由を聞いても「なんとなく」と言われ、自分でもなぜ相手を受け入れられないのか分かっていない学生が多くいました。日本にいても、大勢で日本を訪れ“爆買い”をする中国人の姿に「なんとなく」抵抗感を覚えたことはありませんか？この「なんとなく」好きになれない理由は何なのかを考え、互いを理解し友好な関係を築いていきたいと思ったため、日中関係の研究をしようと決めました。

大学生にとっての「研究」

文献を読み込む、映像作品を鑑賞する。それらの問題点や疑問点を発表し、討論する。教員のアドバイスを聞きながら、他のゼミ生と意見交換しながら、論文を書き進める、作品をつくる。ゼミでの学びは、インプットとアウトプットを繰り返して、積み上げられていきます。個々人が行う研究のほかに、グループ単位での研究を行うゼミもあります。また、多くのゼミは、長期休暇等を利用して合宿を行っています。研究テーマに関連する施設を訪問したり、学部学会での発表に向けて準備を進めたり、普段の活動に肉付けする機会となっています。

研究発表（国際文化情報学会）

国際文化学部の学生、院生による研究発表会が毎年、11月の最終土曜日に開催されます。論文、ポスター形式、映像、インスタレーションの各分野で研究の成果を競います。この学会は自分が学部で何を学んできたかを確認し、その集大成を行う場であり、かつ進学、就職後のキャリア形成の出発点となる場でもあります。自らが発信者となり、能動的に世界を構築してゆくことができれば、世の中はもう少しだけましになる。そう思ったら、すぐに学会発表準備に取りかかりましょう。

インスタレーション（森村ゼミ）